

# 平成 29 年度 第 1 回西淀川区教育会議 会議録

1 開催日時：平成 29 年 6 月 20 日（火）午前 10 時 30 分～午前 11 時 30 分

2 開催場所：西淀川区役所 5 階 区長応接室

3 出席者の氏名：

（委員：敬称略、50 音順）

竹本、延原、森本

（事務局：西淀川区役所）

塩屋区長、山本副区長、高安教育支援担当課長、山城教育支援担当課長代理

小林教育支援担当係長、若松係員

（教育関係者）

三木柏里小学校長（小学校幹事校長）、有田淀中学校長（中学校幹事校長）

4 次第

1. 平成 29 年度校長経営戦略支援予算（区担当教育次長執行枠）について

- ・プログラミング教育推進事業
- ・課題解決に向けた学校取組支援事業

2. 民間事業者を活用した課外学習支援事業について

3. その他

- ・学校ボランティア募集について

5 議事内容

1. 平成 29 年度校長経営戦略支援予算（区担当教育次長執行枠）について

（1）プログラミング教育推進事業について

○区役所からの報告

- ・平成 28 年度の取組のまとめについて情報提供
- ・平成 29 年度の取組について別添資料のとおり説明

○質問など

（議長）

- ・教育現場での効果的な I C T ツールの活用を検討する研究会のメンバー選定はいつ頃行う予定なのか。

（委員）

- ・「企業」とあるが、ホームページ等で募集するのか。区内企業か。

(区役所)

- ・研究会のメンバーについては、先日各学校に案内し、現在募集中である。今週中には決定し、7月初旬には1回目の研究会を開催したいと考えている。
- ・企業については、現在区ホームページで募集しており、応募の意向を示してくれている企業もある。区内企業については、まずは区役所が開催する見学会等で連携していけたらと思っている。
- ・前回の教育会議で、3Dプリンタ等に触れたことがなく、意見を言うことが難しいというご意見があったので、今回開催する見学会等については、教育会議委員の皆様も参加対象者とさせていただいている。また見学対象者として、区全体の機運を高めることにつなげるためにも、地域の方や保護者等にも見ていただきたいと考えており、学校協議会委員への案内も予定している。

(委員)

- ・ロボットとは、どういったものと考えているのか。

(区役所)

- ・プログラミング教育についてはいろいろな手法があると思っており、その一つとしてロボットを教材として取り組んでいる事例がある。ロボット教材を取り扱っている企業に協力してもらい、区役所で体験会等を開催できないか模索しているところである。そのうえで、研究会で議論していただき、学校現場において活用できるものがあれば購入や借入する等して、学校への貸出を行っていただければと考えている。
- ・先週開催された教育分野におけるICT関連の展示会に参加した。種類が多く一つに絞るのは難しいが、いろいろなツールを知るよい機会であった。

(委員)

- ・2020年にプログラミング教育必修化となっているが、枠組が示されているのか。それに基づいて進めているのか。

(区役所)

- ・現在、2020年にプログラミング教育必修化という方針が出されたところであり、今はそれまでの間に、自治体や学校単位で必修化に向けてどう取り組んでいくか考えている時期である。区役所としては、そのきっかけとなるよう体験会等の開催やさまざまな情報を学校に提供していく等、支援していく予定である。あとは実際に教育現場で使われる先生方の意見を踏まえる等して、学校の方でどう取り入れていくのか考えていただくことになると思われる。

(小学校幹事校長)

- ・教育委員会事務局も、モデル校を指定し、公開授業を積み上げていく等して、2020年のプログラミング教育必修化に向けての取組を進めている。3Dプリンタを所有している小学校もあるが、一つのものを出力するのに相当な時間がかかると聞いている。ロ

ボットは、キット等を購入すればすぐ使うことができるので、ロボット関連の方がいいという流れはあるように思う。

(委員)

- ・内容は自治体によって違うのか。
- ・教科としてプログラミング教育というのができるのか。

(区役所)

- ・活用方法はさまざまであり、教科の中で取り入れることや「総合的な学習の時間」等教科以外で取り入れるなど、活用例としていろいろな手法が示されているので、自治体や校長先生によっても変わってくると思われる。
- ・一つの教科となるのではなく、算数や図工といった既存の教科の中でプログラミング的思考を学ぶことになる。授業での取り入れ方は学校によって変わってくると思われる。

(小学校幹事校長)

- ・現在、大阪市教育センターが出している例としては、「4～6年生で各単元に位置づけた授業を年間各2時間実施する」「企業による出前授業でも構わない」等がある。まだ試行段階で少ない時間数であるが、英語の導入もあり、多くの時間を入れるとなると教員は大変である。

(委員)

- ・子どもが小学生になり、いろいろなことを小学校で吸収して帰ってくる。家庭で教えることより小学校で吸収することは印象に残っているようである。いろいろなことを小学校で教えてくれるのは非常にありがたいが、先生方は忙しそうである。学校現場のことや、子ども達がちゃんと吸収できるかを考えると心配でもある。

(中学校幹事校長)

- ・プログラミング教育は、中学校では現行の学習指導要領において「技術科」に位置づけられている。小学校については、教科としての位置づけではないので難しいと思うが、区をあげて取り組んでいただけることはありがたい。
- ・私も先週開催された教育分野におけるICT関連の展示会に参加し、行政と学校との連携に関するセミナーを受講した。区をあげて取り組むとなるとスピード感を持って取組を進めることができるというのが利点だと思う。
- ・3Dプリンタについては、将来的には活用されていくと思われるが、3Dプリンタで出力するにもプログラミングを使うので、そこがポイントになってくると思っている。

(2) 課題解決に向けた学校取組支援事業について

○区役所からの報告

- ・事業内容について別添資料のとおり説明

○質問など

(議長)

- ・1回目での申請は何校あったのか。また具体的な内容は教えてもらえるのか。

(区役所)

- ・1回目の申請は5校であった。内容は資料3ページの条件にあるとおり、運営に関する計画に沿った内容および予算科目での申請であった。

(小学校幹事校長)

- ・校長経営戦略支援予算の基本配付では、教職員のための講演会や研修会の講師謝礼金の支出は認められていないが、この事業では認めていただけるのでありがたいという意見が多い。この事業が今年度限りというのは残念である。来年度の区担当教育次長執行枠予算について、校長会で意見集約しているが、ジュニア英検を受検してはどうかという意見もある。

(中学校幹事校長)

- ・中学校では小中連携の取組への活用として中学校分を校下小学校に分配できないかという意見があった。
- ・区内2中学校は英語重点校として平成25年度から取り組んでいる。今は重点校という制度はないが、重点校だった学校には、その後の効果検証も含めて、昨年度と今年度、ジュニア英検について教育委員会事務局の予算がつくということは確認した。今後へのつながりが大切だと思うので、来年度以降も英語について検討していかなければならないと考えている。
- ・入札等により20万円を下回った場合でも、再度の申請受付はしないとのことであったが、受け付けてもらえるとありがたいという意見があった。

(委員)

- ・区役所において執行するとのことだが、20万円を各学校に渡すということではできないのか。

(区役所)

- ・校長経営戦略支援予算というのは、「基本配付」「加算配付」「区担当教育次長執行枠」の3つに分かれており、「基本配付」「加算配付」は、学校の規模や取組内容に応じて各学校に配付される。この事業は「区担当教育次長執行枠」であり、そもそも各学校に配付するのではなく、学校単位で取り組むことが難しい課題等に区全体で取り組むことによって各学校長のマネジメントをサポートするための予算である。しかし、昨年度に各学校を訪問したところ、学校がそれぞれ異なる課題を持っていることが分かったため、当区ではまず、各学校での課題解決に向けた取組を支援して学校環境を整えてから、区全体の取組を進めていきたい旨、教育委員会事務局に説明し、今年度は認められた。ただし、そのような手法は今年度限りである。また、学校への配付が認められておらず、区役所で事務手続きをするため申請内容によっては相当な事務量であり、そのこともあつ

て今年度途中の再申請が難しいことはご理解いただきたい。

## 2. 民間事業者を活用した課外学習支援事業について

### ○区役所からの報告

- ・事業内容について別添資料のとおり説明

(委員)

- ・参加してほしい生徒は、基礎学力が定着していない生徒か。進学向けの生徒か。

(区役所)

- ・さまざまな理由により基礎学力が定着していない子どもや学習習慣のない子ども達への支援を目的としている。そのため、以前わからなかった学習内容がわかるようになってもらうことを目標としており、事業者には習熟度に応じた学力向上を図るような指導方法をしてもらうことが望ましいと考えている。

(委員)

- ・事業者の反応はあるか。

(区役所)

- ・現在、質問受付期間で、質問はあった。今後、回答を公表する予定で、事業者はその回答を見て申請するかどうか決められると思われる。

(小学校幹事校長)

- ・他区でも同様の取組をしており、その課題や成果等があると思われる。本当に参加してほしい子ども達はあつまらないと聞く。他区では、学校で実施すれば集まるということで、学校に民間講師を派遣してもらう手法で実施した区や、夏休み中に集中的に実施する区もある。
- ・小学生は4年生以上とあるが、4年生が夜間に区民ホールや区民会館に行くのは保護者同伴でないと難しいと思われる。

(区役所)

- ・当初は学校施設を使用して開設することとしていたが、民間事業者が学校を使って学習支援をすることに対して、区全体として考え方を統一することができなかった。まずは、公共施設である区役所附設会館で実施し、状況を見ながら校長先生方とも相談させていただき、学校施設の使用を検討していくこともあるかもしれない。

(中学校幹事校長)

- ・教育の立場としては、区内中学生の学力の向上を目指すのであれば、学校で独自に取り組んでいることと連携する等の方がより効果的だと思われるので、今回の手法はとても残念に感じる。
- ・学校によっては、放課後学習会、土曜日学習会、学校元気アップ事業等の取組を実施しており、そういったところに民間事業者が参入してくれば、もっと効果があらわれる

と思う。

- ・学校以外の場所で実施するとなると、他校間の生活指導上の課題もあるし、いろいろな取組を行っている学校の支援にはならないと思う。
- ・予算規模は分からないが、入札となると内容の質の低下が懸念される。質の担保がないと教育は成り立たないと考えている。

(区役所)

- ・区としては、各学校で独自の取組を行っていることは何っており、そういった取組と連携したいとは考えているが、今回は、市全体で動きがあり急きょ全区で取り組むことになった。先行して取り組んでいる区は、校長経営戦略支援予算(区担当教育次長執行枠)で実施している。昨年度、区担当教育次長執行枠予算を要求した後に、全区で取組を進めるという方針が打ち出されたため、できるだけ費用をかけずに実施する必要があり「大阪市塾代助成事業」のバウチャー制度を利用することとした。
- ・今後、区としても、学校との連携を通じて学力向上等の課題解決に向けた取組を進めることがより効果的な取組だと思っているので、例えば区担当教育次長執行枠の検討の中でそういったご意見があれば事業構築につなげていきたい。

(議長)

- ・塾代助成事業の1万円の範囲内ということであるが、一般的な塾等に通うとなると、1万円以上かかると思われる。参加する子どもは、その費用面で躊躇されている家庭で、かつ、もう少し学習したいと思っている子どもと仮定すると、かなり絞られると思われる。
- ・学校施設での全校実施が難しいということであれば、波及効果を考えてモデル校実施もよいのではないかと。本道としては、各中学校単位でいろいろと取組をされていると思うので、それとの連携や支援ができればより効果的だと思う。今年度は説明のあった方法で実施していただき、状況を見ながら来年度の検討をしていただきたいと思います。

### 3 その他

学校ボランティア一覧について

(区役所)

- ・学校ボランティア募集について、各学校から集約した一覧を区広報紙「きりり☆にしよど」6月号に掲載する。定期的な掲載の依頼もあり、次回は11月号での掲載を予定している。

(小学校幹事校長)

- ・早速、本校に読み聞かせボランティアの問い合わせがあった。ICT支援員の訪問は年2回しかないので、タブレット端末の操作ボランティアにきてほしい。

(委員)

- ・特にきてほしいボランティアのマークを変える等してはどうか。
- ・何か資格が必要なボランティアもあるのか。応募しようと思っても資格が必要か必要ないかが分からなくて問い合わせに際して悩む方もいるのではないか。

(区役所)

- ・次回掲載時は特にきてほしいボランティアを聞き取り、マークを変える等工夫することを検討する。
- ・資格は必要ないので、その旨の文言を追加する。